

# 国連大学協力会 2008 年度事業報告

## FY2008 Operational Report

### 【基本方針】 [Basic guidelines]

2008 年度において国連大学は、新たな展開として東京本部に新たな研究所を設置し、そこを基盤として、日本の大学との連携による大学院プログラムの構築やツイン研究所方式によるアフリカ支援強化等の構想を打ち出した。これは、国連が主唱する“持続可能な環境・開発による持続可能な社会の実現”のためのダイナミックな研究や本格的な人材育成を目指すものである。このことから、08 年度における国連大学協力会の事業計画は、国連大学のそれらの新しい構想を資金的に支援するための計画的な取り組み、及び国連大学のこれらの活動に対して、我が国国民の関心を高め、支持を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開しながら、本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針とした。

### 【事業報告】 [Operational report]

#### I 寄附金募集活動 [Fund-raising Activities]

##### 1. 「国連大学 “グローバル サステナビリティ プログラム” 支援募金」計画の検討 (継続)

[Fund-raising programme for United Nations University's "Global Sustainability Programme" (ongoing)]

本法人では 2007 年度以来、国連大学の “持続可能な環境・開発による持続可能な社会の実現” に資する研究及び人材育成活動を強力に支援できるよう、30 億円規模の基金設立を目標とする「国連大学 “グローバル サステナビリティ プログラム” 支援募金」計画を検討してきた。しかるところ、国連大学における新たな大学院構想及び研究所構想の提唱を受けて、2008 年度においては関係者との協議等を重ねながら、募金活動のあり方を再検討することとした。

##### 2. 一般寄附金 [General donations]

「一般寄附金」は、広く国民から随時に受け入れる寄附金であり、08 年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの一般寄附金の総額は、19,360,000 円で、その内訳は別表 (P6) のとおりである。

##### 3. 賛助会費 [Dues from supporting members]

国連大学の活動を継続的・安定的に支援するために、個人及び法人・団体からの「賛助会費」による寄附金募集は極めて重要であり、ウェブサイトによる広報の他、国連大学が開催するグローバル・セミナーやシンポジウム、各種イベント等の機会を活用して、関係書類を積極的に頒布し、会員の募集に努めた。08 年度において、賛助会費収入の合計は 1,465,000 円であり、会員種別による内訳は個人会員 90 件、法人会員 6 件であった。

#### II 国連大学への助成活動 [United Nations University Support Activities]

国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との十分な連絡調整のもと、助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、「国連大学協力会助成・寄附諮問委員会」による十分な審議を経て行った。08年度の国連大学への助成金額は、合計25,202,500円であり、助成対象となった国連大学のプログラムは以下のとおりである。

## 1. 国連大学の研究活動に対する助成〔Support for UNU Research Activities〕

08年度において国連大学が重視している“持続可能な環境・開発・平和”に関する研究活動に対し重点的に助成した。

### (1) 平和とガバナンス分野〔Peace and Governance Category〕

#### ① 「平和とガバナンス」プロジェクト（新規助成）

〔Peace and Governance Projects (new support)〕

UNU本部が展開する「平和とガバナンス」プログラムの各種プロジェクト。

### (2) 環境と開発分野〔Environment and Development Category〕

#### ① アジア沿岸水圏における環境モニタリングとガバナンス（継続助成）

〔Environmental Monitoring and Governance in the Asian Hydrosphere (ongoing support)〕

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究である。ダイオキシンやPCBなどの残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境監理を目指す事業。

#### ② ゼロエミッションフォーラム（継続助成）

〔Zero Emissions Forum (ongoing support)〕

環境の質の保全と持続可能な開発を同時に達成するために、これまでの生産のあり方と消費形態のあり方を見直し、資源利用の最適化及び廃棄物の最小化を促進するための技術開発と市民活動の展開を促す研究・実行プロジェクト。そのため、幅広い産業界と市民層を巻き込んだ、廃棄物相互利用による資源の最大活用と、廃棄物の排出削減との両立を目指す。

#### ③ ESDプログラム（新規助成）

〔ESD Programme (new support)〕

環境と持続可能な開発をキーワードに、人間の活動と自然環境との関係について多角的に取り組み、さまざまなプロジェクトを展開。

#### ④ 国連デーにおける国連大学の事業（新規助成）

〔UN Day (new support)〕

日本国内の国連機関が毎年10月24日に開催するイベントで、国連や国連大学の活動・成果・課題を知ってもらうことを目的として共同イベントを行う。08年は「地球温暖化」をテーマに行われた。

## 2. 国連大学の研修活動等に対する助成〔Support for UNU Training Activities〕

### ① 国連大学グローバル・セミナー（継続助成）

#### [UNU Global Seminars (ongoing support)]

国連大学が行っている研修活動のうち、国内 7 地域で開催されるグローバル・セミナーは、毎年幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。このセミナーは、日本の若者も多く参加することから、本法人としても従前より強力に支援してきた。08 年度は、そのうち湘南セッション及び沖縄セッションに対して支援した。

#### ② 鳥瞰型環境学サマースクール（継続助成）

[UNU Summer School for Bird's-eye-View Environmental Science (ongoing support)]

国連大学の活動の主要テーマである環境問題に関し、主として大学院博士課程レベルを対象とした環境学・環境問題に関する専門研究者・実践専門家の養成を図る事業。環境問題の今日性及び専門家養成の重要性に鑑み、継続的な支援を行った。

#### ③ 国際講座（新規助成）

[UNU International Courses (new support)]

将来、国連機関や NGO を含めた各種の国際機関の職員を目指す人々や、国際問題に深い関心を持った学生等を対象として、約 6 週間にわたり、UNU 本部において行われる研修講座。

### 3. 国連大学の施設・整備に関する助成 [Support for the enhancement of UNU facilities]

#### ① 国連大学本部の施設維持特別助成（継続助成）

[UNU Centre facilities maintenance special support (ongoing support)]

国連大学本部の施設維持について支援した。

#### ② 国連大学図書館図書購入費（継続助成）

[UNU Library Book Procurement Fund (ongoing support)]

国連大学図書館の蔵書の充実に資するため支援した。

### 4. その他 [Others]

#### ① UNUメディアスタジオ（新規助成）

[UNU Media Studio(new support)]

UNUメディアスタジオでは、開発途上国の人材育成のためのオンライン教材を作成するとともに、新しいプロジェクトとして、環境問題等を扱ったウェブマガジンを制作。日本社会にも身近な話題に焦点を当てながら、啓発的な内容とすることを目指している。

## III 国連大学からの委託事業 [Operations Delegated by UNU]

### ① 国連大学研修事業における諸費用の徴収事務（継続事務）

[Collection of Fees from UNU Training Operations (ongoing administrative support)]

国連大学が実施する事業の業務遂行の合理化を図る観点から、研修事業において、主として日本人参加者からの諸費用徴収にかかる事務について、国連大学からの委託を受託した。

#### IV 国連大学への国民の関心を高め、支持を強化するための事業

##### 〔Programs to strengthen public interest and support for UNU〕

国連大学の活動が世界の平和構築、持続可能な地球の実現に不可欠な活動であることについて広く国民の理解を得、幅広い国民各層が国連大学の活動に高い関心を寄せ、強力な支持が得られるよう、広報普及活動を積極的に推進した。

##### (1) 広報分野〔Publicity Category〕

###### ① 広報用パンフレットの作成・改定（継続事業）

##### 〔Creation of publicity pamphlets (ongoing)〕

国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝えるよう、各種パンフレットを制作・改定し、積極的に頒布した。さらに、「国連大学協力会ニューズレター」において、イベントの様相や国連大学の研究・活動内容、関係者へのインタビュー記事を掲載した上で、賛助会員を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めた。

###### ② jfUNU レクチャーシリーズの発刊（新規事業）

##### 〔Publication of jfUNU lecture series (new)〕

ロザリン・ヒギンズ国際司法裁判所所長を招いて2007年に実施したシンポジウムの記録「国際社会における法の支配と市民生活」をjfUNU レクチャーシリーズとして4月、出版した。

##### (2) 講演会等分野〔Lecture Category〕

###### ① 気軽な講演会等の開催（継続事業）

##### 〔Holding Public Lectures, etc. (ongoing support)〕

幅広い国民や企業関係者などの国連大学及び国連大学協力会への関心と支持を高めるため、国連関係機関や国連大学の活動と人々の生活、企業活動との関連など、身近な問題から国連大学の活動の重要性を認識してもらえるよう、一般市民が参加できる講演会を下記のとおり実施した。

###### 1) 東北大学との共催セミナー

##### 〔Co-sponsoring seminar with Tohoku University〕

4月16日、国連大学および東北大学との共催で、公開セミナー「人間の安全保障－恐怖からの自由、欠乏からの自由－」を東北大学片平キャンパス内さくらホールで開催した（後援：外務省及び文部科学省）。セミナーでは、「人間の安全保障」をメインテーマとして、近年、特に論じられている貧困地帯で顕著な地域紛争やテロによる犯罪等の暴力的な恐怖に対する脅威と食料や物的資源、インフラ等の公的資源への物質的欠乏とそれらがもたらす脅威に対し、国際社会としてどのように対処するかを検討。国連大学の学術研究官が「平和構築」、「環境」の視点から安全保障を論じ、続いて東北大学教授陣が医学、農学、工学などそれぞれの専門分野から、人間の安全保障に対する取り組みについて提言を行った。

##### (3) 調査・研修等分野〔Investigative and Training Category〕

###### ① ジュニアフェローシンポジウム2008

### 〔Junior Fellows Symposium 2008〕

9月18・19日、国連大学（UNU）との共催で、ジュニアフェローシンポジウム2008を開催した。一昨年度に引き続き、UNU東京本部が実施する国際講座、グローバルセミナーシリーズや大学院共同講座など各種の人材育成コースを修了したUNU 同窓会のメンバーを対象に、ブラッシュアップ研修として行ったもので、約50名が参加した。2日間にわたるシンポジウムは、“Agenda for Peace and Development: Our Initiatives for a Better World”をメインテーマとし、基調講演、パネルディスカッションならびにワークショップで構成。初日の基調講演とパネルディスカッションは一般公開され、学生、社会人など約80名が聴講した。基調講演者のユネスコ統計研究所 アジア太平洋地域アドバイザーのコー・チー・トン博士をはじめ、UNU学術研究官、大学教員らが、構築、開発などの問題における現状や課題について見解を述べ、参加者からも積極的な意見と質問が寄せられた。

### ② UNU研修コース同窓会（継続事業）

#### 〔UNU Capacity Development Course Alumni Association (ongoing)〕

9月18日、第2回国連大学人材育成コース同窓会(UNU Capacity Development Course Alumni Association) 総会を国連大学本部で開催した。CDC 同窓会は、UNU本部と国連大学高等研究所（UNU・IAS）の実施する人材育成コース修了生が、情報交流を図る機会を作ることを目的として2007年12月に発足し、国連大学協力会が事務局を務めている。当日の総会では、同窓会登録者のうち約50名が出席。代表幹事から入会状況が報告された後、3人の同窓生がUNUで学んだことを現在の自分の仕事や活動にどう活かしているかを発表した。その後、2Fレセプションホールで懇親会が行われ、修了生同士が交流を深めた。

### ③ 国際講座受講生の日本文化体験プログラム（新規事業）

#### 〔Japanese culture experience program for the participant's of UNU international courses (new)〕

国連大学の短期研修講座「国際講座（International Courses）」の受講生を対象として、日本文化体験の一環として、6月の講座期間中に歌舞伎見学プログラムを企画・実施した。

## V 本法人の管理運営に関する事項〔Items concerning jfUNU Administration〕

2009年（平成21年）に予定している新公益法人への移行申請に伴う課題について検討を進めた。

以上

＜国連大学協力会 2008 年度事業報告 別表＞

＜FY2008 Operational Report Annex＞

2008 年度 寄附金収入及び国連大学への助成実績一覧

List of Donations and Other Support Given to UNU in FY 2008

寄 附 金 収 入		金 額
一般寄附	個人 6 件  法人 23 件（五十音順） 株式会社アース環境開発、株式会社 IWD、アサヒビール株式会社、株式会社インテージ、株式会社エーオーエー アオバ、エコプレミアムクラブ、塩ビ工業・環境協会、株式会社沖縄海邦銀行、株式会社沖縄銀行、沖縄セルラー電話株式会社、沖縄電力株式会社、オリオンビール株式会社、シマダヤ株式会社、株式会社島津製作所、第一生命保険相互会社、株式会社電通、那覇空港ビルディング株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、丸正印刷株式会社、財団法人吉田科学技術財団、株式会社リーテム、理想科学工業株式会社、株式会社琉球銀行	19,360,000 円
賛助会費	個人会員 90 件 法人会員 6 件	1,465,000 円
合計額：		20,825,000 円

国 連 大 学 へ の 助 成	金 額
・ 平和とガバナンスプログラム	200,000 円
・ アジア沿岸水圏における環境測定と管理プロジェクト	14,250,000 円
・ ゼロエミッションフォーラム	1,448,750 円
・ ESD プログラム	200,000 円
・ 国連デー	100,000 円
・ 国連大学グローバル・セミナー湘南セッション	640,000 円
・ 国連大学グローバル・セミナー沖縄セッション	1,413,750 円
・ 鳥瞰型環境学エキスパート養成 UNU サマースクール	1,300,000 円
・ 国連大学国際講座	200,000 円
・ 国連大学本部の施設整備助成金	5,000,000 円
・ 国連大学図書館図書購入費	50,000 円
・ 国連大学メディアスタジオ	400,000 円
合計額：	25,202,500 円